

平成31年度

## 全国学力・学習状況調査 壬生町全体の調査結果

### I 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのよう取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### II 調査の対象とする学校及び児童生徒

- 壬生町立小学校 第6学年児童
- 壬生町立中学校 第3学年生徒

### III 調査実施日 平成31年4月18日(木)

### IV 調査対象学年及び調査事項

- 小学校 第6学年 「国語」「算数」「学習状況」
- 中学校 第3学年 「国語」「数学」「英語」「学習状況」

### V 調査内容

#### ○教科

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

#### ○質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

### VI 学年・教科ごとの調査実施児童生徒数

	国語	算数・数学	英語
小学校第6学年	293人	293人	
中学校第3学年	338人	338人	338人

### VII 本調査の実施に関する壬生町教育委員会の考え方

- 1 本調査は、各学校が児童生徒の学力・学習状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に役立てるために積極的に活用を行う。
- 2 本調査は学校間、児童生徒個人の序列化や比較を行うものではない。
- 3 壬生町教育委員会は、文部科学省の方針にしたがい、本町及び全小中学校の結果を一括公表することはない。

## Ⅷ 全国学力調査 壬生町全体の調査結果の概要

### ○小学校の状況

#### 【国語】

壬生町全体の結果は、国の結果より高い状況である。学習指導要領の領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、言語についての知識・理解・技能が優れている。また、領域「話すこと・聞くこと」についても、話す・聞く能力が優れている。

#### 【算数】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや高い状況である。学習指導要領の領域「量と測定」について、数学的な考え方が優れている。また、領域「数と計算」についても、数学的な考え方が優れている。

### ○中学校の状況

#### 【国語】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや高い状況である。学習指導要領の領域「話すこと・聞くこと」について、話す・聞く能力がやや優れている。また、領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についても、言語についての知識・理解・技能がやや優れている。

#### 【数学】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや低い状況である。学習指導要領の領域「関数」について、数学的な技能は優れている。しかし、領域「関数」について、数学的な見方や考え方を身に付けさせる必要がある。また、領域「資料の活用」についても、数学的な見方や考え方を身に付けさせる必要がある。

#### 【英語】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや高い状況である。学習指導要領の領域「聞くこと」について、言語や文化についての知識・理解が優れている。また、領域「読むこと」について、外国語理解の能力も優れている。しかし、領域「読むこと」について、言語や文化についての知識・理解を身に付けさせる必要がある。

## Ⅸ 学力調査結果の分析と指導の改善策

### ○小学校

#### 【国語】

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる。 (設問番号1の三)
---

・自分で調査したことをまとめ、報告する文章を書く場合には、報告する目的を明らかにし、調査の内容や方法、調査の結果とそこから考えたことを明確にして書く必要がある。その際、調査の結果などの事実の記述は、図表やグラフを用いる方が分かりやすい

場合がある。ここでは、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができるように指導する必要がある。

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。  
(設問番号1の四の(1))

・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができるよう指導する必要がある。

例えば「対象」・「対照」・「対称」。「関心」・「感心」など。

文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる。  
(設問番号1の四の(2))

・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができるように指導する必要がある。その際、読み手に分かりやすくするために、ここでは、接続語「そこで」の働きを正しく理解し、意味のつながりや文末表現を考えて、二文に分けて書き直すことができることが望ましい。また、同じような働きをする接続語に書き換える力も必要である。

## 【算数】

示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できるかどうかをみる。  
(設問番号1の(3))

・図形の学習では、図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めたり、図形の構成の仕方や計量の仕方について筋道を立てて考察したりすることが重要である。ここでは、示された図形の面積を求める式を図形と関連付けて説明できるよう指導する必要がある。そのためには言葉の式から数式へ、数式から言葉の式への変換ができるような指導の改善が必要と考えられる。

資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できるかどうかをみる。  
(設問番号2の(3))

・日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、資料の特徴や傾向に着目して事象を考察し、判断することが重要である。そのために、例えば、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。また、計算して具体的な数量を求めなくても、グラフから読み取ることができる資料の特徴や傾向を基に、数量の大小について判断することができるようにすることも大切である。ここでは、第3学年での「棒グラフの読み方や書き方について知ること」と第5学年での「単位量当たりの大きさについて知ること」の学習を基に、市全体の水の使用量はあまり変わらないが、市の人口が増加していることにより、一人当たりの使用量は減少していることをどのような計算で求めることができるのか説明できるよう指導する必要がある。

示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述できる。  
(設問番号3の(2))

・計算をする際には、その計算が確実にできるとともに、計算を能率的にするために工夫することができることが重要である。その際、数を多面的にみることで、計算に関して成り立つ性質を活用することができることが重要である。そのために、例えば、数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだしたり、数や場面を変えても計算に関して成り立つ性質を活用できるかどうかを考察したりすることができるようにすることが大切である。さらに、計算が簡単になるなどの数学の良さに気づき、生活や学習に活用しようとすることができるようにすることも大切である。ここでは、第3学年の「加法と減法」と第4学年の「整数の除法」の学習を基に、割られる数と割る数にそれぞれ同じ数をかけたりわったりしても商が変わらないことを言葉で説明できるよう指導する必要がある。

示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみる。  
(設問番号3の(4))

・ここでは、第3学年の「数量関係」と第5学年の「小数の乗法・除法」の学習を基に、小数の割り算を整数の割り算に直して計算することができること、更には、もともとの式で求める数量と直した式で求めた数量が同じ数量であることを理解できるように指導する必要がある。

## ○中学校

### 【国語】

封筒の書き方を理解して書けるかどうかをみる。  
(設問番号1の四)

・急速に情報化が進展する社会の中では、目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を身に付ける必要がある。そのために、新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりすることが大切である。また、文章の内容や構造を理解して必要な情報を取り出したり、多様な情報に触れる中で自分が興味のある話題に出会い、既存の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりすることも重要である。ここでは、投稿を封筒で郵送するという設定の下だが、字形や配列に注意しながら、封筒に名前と住所を書いたりすることができるよう指導する必要がある。その際、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えることも重要である。

### 【数学】

反比例の表から  $x$  と  $y$  の関係を式で表すことができるかどうかをみる。  
(設問番号4)

・関数を用いて事象を捉え考察する場面では、具体的な事象の中から伴って変わる2つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数

の特徴を調べるために、2つの数量関係を表、式、グラフで表現することが大切である。ここでは、表から変化や対応の特徴を基に比例定数－6を求め、反比例の式を表すことができるように指導する必要がある。

グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。  
(設問番号6(1))

・日常生活や社会の事象を考察する場面では、与えられた表から必要な情報を選択したり、グラフを事象に即して捉えたりして、数学的な結果を事象に即して解釈することが求められる場合がある。その際、問題解決の方法を考え、それを数学的に説明することが大切である。ここでは、冷蔵庫の総費用を

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + (\text{年間電気代}) \times (\text{使用年数})$$

で算出する関数が与えられており、グラフ上の2点の差を事象に即して解釈できるよう指導する必要がある。

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。  
(設問番号6(2))

・ここでは、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比較する上で、総費用が等しくなる使用年数について連立方程式を用いて算出する方法と、2つの関数の交点についてグラフから読み取る方法から選択し、説明することができるよう指導する必要がある。そのためには、各単元での学びを関連付ける指導の工夫が必要である。

結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができるかどうかをみる。  
(設問番号7(3))

・図形の性質を考察する場面では、証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返って統合的・発展的に考察し、新たな性質を見いだすことが大切である。ここでは、三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、図形の性質の証明を読んで新たな性質を見いだしたりできるよう指導する必要がある。

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。  
(設問番号8(2))

・日常生活や社会の事象を考察する場面では、資料やグラフなどを適切に読み取り、資料の傾向を捉え、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切である。目的に応じて資料を収集し、コンピューターを用いるなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにすることが重要である。ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え説明することができるよう指導する必要がある。ここでは、中学生の1日当たりの読書時間のアンケート結果を集計した資料を基にしての出題であるが、平均値がデータの最も集中している位置にないことを根拠として、平均値と同じ読書時間の生徒が多いと判断することは適当でないことを説明できることが期待される。

問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができるかどうかをみる。  
(設問番号 8 (3))

・ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解することが大切である。ここでは、平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値の中から、「半数以上の生徒が～」に着目した結論の根拠となる代表値を選ぶことができるよう指導する必要がある。

与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができるかをみる。  
(設問番号 9 (1))

・数に関する性質を考察する場面では、数学的な結果を事象に即して解釈すること、予想した事柄が成り立つ理由について、筋道を立てて考え説明すること、さらに統合的・発展的に考察し、新たな性質を見いだすことが大切である。具体的な事象の中に数量関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則演算ができるよう指導する必要がある。ここでは、「連続する3つの奇数の和」についての式を読み取り、 $3 \times (\text{整数})$  が (整数) の3倍であること、更には (整数) 部分が表している数を解釈できるような指導の工夫が必要である。

## 【英語】

聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる。  
(設問番号 4)

・リスニング問題であるが、話し手からの依頼、提案などを聞き、適切な応答を相手に返すことができるよう指導する必要がある。ここでは、来日予定の留学生からのメッセージを聞いて、アドバイスを書くことになる。まずはメッセージの内容や意図を正しく理解すること、更には適切なアドバイスの表現を正確にすることがポイントとなる。

まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができるかどうかをみる。  
(設問番号 7)

・ここでは、チンパンジーに関する説明文を読み、その前後の対話文を参考にしながら、特に中心となる事柄など大切な部分を捉えることが重要になる。「大切な部分を捉える」とは、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断することを意味する。コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、そうした読み取り方を身につけておく必要がある。

書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができるかどうかをみる。  
(設問番号 8)

・文章を読んだ後に感想や意見、賛否、また、その理由を示すことを念頭に置いて、話の内容や書き手の意見などを主体的にとらえることができるよう指導する必要がある。ここでは、食料を無駄にすることをやめるために自分ができることについての解答を求められている。よって、自分の考えを示すために必要な表現が身につけていなければならない。

文の中で適切に接続詞を用いることができるかどうかをみる。

(設問番号 9 (1))

・正しく文を書くためには、語や文法事項等の知識を活用できる程度に高めておかなければならない。接続詞は語と語、文と文を結束させ、文を構成する上で重要な役割を果たすものである。ここでは、接続詞 *if*、*but* の用法を正しく理解して、文の中に適切に用いることができるよう指導する必要がある。また、*and*、*or*、*because* についても比較しながら理解を進めたい。

一般動詞の 1 人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

(設問番号 9 (2)②)

・会話の流れから時制を判断して、1 人称、2 人称の英文を正しく書くことができるよう指導する必要がある。前文の *was*、*went* の記載から過去時制であること、*My family and I* から複数の主語 *We* を導くことが必要となる。

与えられた情報に基づいて、3 人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

(設問番号 9 (3)①②)

・「彼女はオーストラリア出身」→ *She is from Australia.*

*She comes from Australia.*

・「彼女はローマに住んでいる」→ *She lives in Rome.*

3 人称単数であることから、*be* 動詞なら「*is*」、一般動詞なら～*s* となることを理解し、表現できるよう指導する必要がある。

与えられた情報に基づいて、一般動詞の 3 人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

(設問番号 9 (3)③)

・「彼女はペットを飼っていない」→ *She doesn't have pets.*

*She has no pets.*

3 人称単数であることから、否定の *don't* → *doesn't* に変化させる必要があることを理解し、表現できるよう指導する必要がある。

与えられたテーマについて考えを整理し、文と文とのつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

(設問番号 10)

・ここでは、タウンガイドに利用する学校を表す 2 つのピクトグラムのある案のうち、どちらの案が良いかについてまとまりのある文章を書くことができることが重要である。「まとまりのある文章を書く」とは、自分の考えに加えてその理由を述べているなど、文と文の順序や、相互の関連に注意を払い、全体として話題や文章構成に一貫性のある文章を書くことを意味する。自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く力を養う必要がある。

## X 全国学習状況調査 壬生町全体の調査結果の概要

「学習状況調査」については、全国の平均と比較して、壬生町の児童生徒が優れていると思われる項目を○、今後の指導・改善が必要であると思われる項目を▲で示した。

### 【小学校】

- 先生は、あなたの良いところを認めてくれている。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- 学校に行くのは楽しい。
- 学校の決まりを守っている。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもって知ってもらいたいと思う。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- 授業で学んだことを他の学習に生かしている。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- 国語の勉強は好き。
- 国語の勉強は大切だと思う。
- 国語の授業の内容はよくわかる。
- 国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う。
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを書いたり話したりしている。
- 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。
- 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- 算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。



## 【中学校】

- 家の人と学校での出来事について話す。
- 自分には、よいところがある。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。
- ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがある。
- 学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- 1, 2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組んでいたと思う。
- 国語の勉強は好きである。
- 国語の勉強は大切だと思う。
- 国語・数学の授業の内容はよくわかる。
- 国語・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- 国語の授業で学習したことを普段の生活の中で、活用しようとしている。
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している。
- 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる。
- 1, 2年生の時に受けた授業では、英語を聞いて（読んで）概要や要点を捉える活動がおこなわれていたと思う。
- 1, 2年生の時に受けた授業では、原稿などを準備することなく、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動がおこなわれていたと思う。
- 1, 2年生の時に受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う。
- 1, 2年生の時に受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする活動が行われていたと思う。
- 1, 2年生の時に受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う。
- ▲ 授業でもっとコンピューターなどの ICT を活用したいと思う。